

令和元年度 香川大学 瀬戸内圏研究センター 学術講演会

[本城ゼネラルマネージャー]

ただ今より、学術講演会を開催したいと思います。今日、司会を担当いたします瀬戸内圏研究センターのゼネラルマネージャーをしております本城でございます。まず、多田センター長より開会の挨拶をお願いいたします。

[多田センター長]

皆様こんにちは。瀬戸内圏研究センター長の多田です。今日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

毎年、この学術講演会を開催させていただいており、今回は「瀬戸内圏の海、観光、健康を学ぶ」というタイトルにさせていただきました。

瀬戸内圏研究センターでは学術講演会を年1回、シンポジウムを2年に1回開催しております。この学術講演は、我々に関係する研究や活動をされている方々をお呼びして、瀬戸内圏が抱えている問題について、センターの我々と一緒に皆で勉強するという行事です。一方、シンポジウムは当センターで実施した研究の成果を皆様に聞いていただくという行事です。

瀬戸内圏研究センターには、我々が3本柱と呼んでいる海グループ、観光グループ、地域医療グループの3つのグループがあります。そして、瀬戸内圏の諸問題の解決に向けて研究し、その成果を地域に戻すということを目的に活動しております。

この絵は我々が対象にしている里海、瀬戸内の海です。瀬戸内海では美味しい魚が獲れ、沿岸部では養殖をしております。このような海をいつまでも守りたい。また瀬戸内海には、たくさんの島があつてとても美しい。そういった景観を守りたい。このような海の環境を研究するのが海グループです。



今日は兵庫県から西川様に来ていただいて、香川県でも盛んなイカナゴの資源変動（減少）についてお話をしていただき、勉強したいと思います。

観光グループに関して申しますと、瀬戸内圏にはこのように綺麗な自然がありますし、その中で独特の瀬戸内圏の文化が育まれています。また、美味しい魚を食べることができる所もあります。この瀬戸内圏、これそのものを観光資源として生かして行こうとしています。今、瀬戸内圏が非常に注目されていて、ニューヨークタイムズの 2019 年に行くべき 52 カ所の上位 10 位に瀬戸内の島々も入っています。こういうところを瀬戸内の観光資源として生かす。さらに、その観光も今までのような観光だけではなくて、新しい観光のあり方を見出そうということで、今日は三豊市から横山様に来ていただいて、栗林公園のツーリズム（観光ガイド）のお話をさせていただきます。

地域医療グループに関して申しますと、香川県には地域の病院どうしをネットで結び、医療情報を共有することができる K-MIX+（かがわ遠隔医療ネットワーク）というシステムがあります。このような遠隔医療を離島や山間僻地にうまく活用し、安心して暮らせる瀬戸内圏を創造しようということで、今日は岩手県から小笠原先生に来ていただいて、遠隔医療のお話をさせていただきます。

ということで、今日はこの学術講演会を開催いたしました。今から 17 時まで少し長丁場になりますけれども、皆様、最後までどうかよろしく願いいたします。

以上です。